

以森伝心

第 11 号

理事長 柏原康夫筆

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会情報誌「以森伝心」 第11号 2010年8月



大文字山の森の観察

フィールドソサイエティー「森の子クラブ」

特集：インタビュー「環境学習活動と森」

フィールドソサイエティー 久山慶子さん

もり
森林に関わる人々 第1回 森林で働く人々①

森と木のナルホド講座 第7回「林業の衰退?!」

チーム以森伝心ニュース 第3期「チーム以森伝心」メンバー大募集!!

「背景写真：広葉樹林・府民の森ひよし（南丹市日吉町）」

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

ひさやまけいこ
久山慶子さん

フィールドソサイエティー事務局長

森での体験が子どもたちの好奇心を呼び覚ます

浄土宗の祖・法然上人が弟子たちと六時礼讃を修した草庵であった場所に、知恩院第三十八世・万無が念仏道場を建てたことに始まる法然院。

市街地に近い場所にありながら、寺域に11ヘクタールもの豊かな森林が残るこの場で「お寺と市民の二人三脚」をコンセプトに、25年以上にわたって環境学習活動を行っているフィールドソサイエティー事務局長・久山慶子さんに、市民の目線で行う森の活動についてうかがいました。

春や秋などの観光シーズンには京都内外から多くの観光客が訪れる哲学の道。そのなかほどの山側にある法然院は、著名な学者や文豪の墓、国の重要文化財の襖絵を保有する古刹である。そんな法然院がなぜ環境学習活動と結びつくのか……、そういう疑問が浮かぶのも不思議ではないだろう。

「私たちが活動を開始したのは1985年のこと。ちょうど現貫主のかじ田真章さんに



替わられた頃で、「現代にふさわしいお寺の在り方」を模索されていました」

その第一弾としてスタートしたのが「法然院森の教室」だった。市民が気軽に参加できる観察会や、法然院の講堂で行う講演会などを月例会として開催。自然・環境という大きなテーマを基本に、学者や研究者の協力を得ながら一般市民の目から学ぶという姿勢を大切に活動を続けた。

「お寺は境内の森をフィールドとして開放し、私たち市民は環境学習のプログラムを考えて活動しました。お寺と市民と一緒に立ち上げた「森の教室」は、時代背景にも助けられて広がりを見せ、1989年には子どものための「森の子クラブ」を開始することもできました。その後、1993年に「共生き堂」が開館、法然院森のセンターとして多くの人々に親しまれるようになり、森林学習を念頭にお寺の森を整備する「観察の森づくり」や、体験型プログラムの「オープンルーム」など活動の幅が広がりました」

森のセンターには、身近な森の魅力を紹介する展示スペース、里山文庫という図書室を兼ねたワークルームが設けられた。また、施設の運営管理と活動の充実化の

ひさやまけいこ
フィールドソサイエティー事務局長 久山慶子

1958年、兵庫県生まれ。同志社大学文学部卒業。1985年より「法然院森の教室」世話人、1989年より「森の子クラブ」活動リーダーとして、環境学習に携わる。1993年より「フィールドソサイエティー」事務局長として、活動に加えて「法然院森のセンター」の運営に携わる。京都府緑の公共事業政策検討委員、京都モデルフォレスト協会森林づくり基金運営委員、京都市私立幼稚園連盟研修会講師、「天王山森の学校」講師なども務める。主な著書に『身近なときめき自然散歩』（共著）（淡交社）、『大文字山を歩こう』（共著）（ナカニシヤ出版）などがある。



森遊びイベントで、ツリークライミング® 体験を!!

ツリークライミング®は専用のロープや安全保護具を利用して木に登り、自然との一体感を味わう体験活動です。

ギブ・アンド・テイクの森林整備を考える研究会では、ツリークライミング®体験を取り入れた森林づくりを提唱しています。

お問い合わせ
TEL: 0771-72-1339
E-mail: hiyoshi@forest-hiyoshi.jp
(府民の森ひよし内)
担当: 片山、田端

ため、フィールドソサイエティーが同時に設立された。

フィールドソサイエティーの中心的なプログラムのひとつに“森の子クラブ”がある。小学校3年生から中学3年生までの子どもたちが主役の年会員制の環境学習活動だ。毎年25名程度の子どもたちが参加し、自然観察や森林体験、田植えや稲刈り、合宿活動を通して、森のしくみ、森と人間との関わりなどを学ぶ。子どもたちは普段見られないムササビなど森の動物が見られワクワクできる反面、危険な生き物と遭遇することもある。野外の危険についてはきちんと話をし、それ以外は子どもの感性を大切に、自らの体験を通して学んでいくことをモットーにしている。

「虫は苦手、TVゲームが好きなどと言っていた子どもたちも、回数を重ねるうちに森の中にある不思議に目をキラキラさせるようになります。生き物を見つけない、触ってみたいと思うようになったり、野鳥や樹木の様子をじっくり観察したり、子どもらしい好奇心でいろいろな発見をします。柔軟な感性で、小さな生き物から自然の偉大さ、奥深さを認識していくようです」

文字から読み取った知識ではなく実体験の知識は、より心の深くに根付くものである。子どもたちからは「森を守る人になりたい」と思い始めた」「普段から、自然を大切にしようと思うようになった」などの感想も寄せられている。

また、近年は人間関係が苦手な子どもや積極的に行動を起こせない子どもが増えているといわれるが、ここでは、活動を通して人間関係を上手に構築していく姿が見られるようだ。4月から翌年3月までの1年間、同じメンバーで活動するため、初めはよそよそしさが拭えない子どもたちも徐々に打ち解けていく。2年目、

3年目の先輩たちは自分が身につけたことを後輩に教え、そして、体験のなかで生じた疑問には一緒に解決しようと取り組む。



森の子クラブにて。「発見を楽しみながら、生き物のつながりを子どもたちと共感したい」

「現代の学校や社会は、子どもたちにとっては窮屈なのかもしれません。子ども自身の中にある本来の生命力、好奇心を発現させられる、ゆったりとした時間や場所が必要です。様々な命が息づいている森は、探究心を培うことができる空間であり、問題解決のための応用力も養ってくれる場です。野外体験であればこそ、自分だけで難しければ協力しようとする力も育まれるのではないのでしょうか」

活動を通して、久山さんは地域のお寺の森に市民が愛着を抱くことにも、活動の意義を感じているという。

「京都に住んでいても、社寺は観光やお参りに行くところのように思いがちです。しかし、もともとそこは、お祭りや寺子屋など、地域の人が集まる場であり、何より精神的な拠り所でした。そんな、目に見えない力が今も息づいているのでしょう。これからの時代に森を意識することの大切さも教えてもらえるように感じます」

古来、寺は仏道修行の場であり、伝統や格式を持ちながら人々が集まる場所として機能していた。森に囲まれ、森と寺との歴史も長い京都において、安心して自然観察ができる場所として人が集い、森と人、市民と地域の寺院を近づけるフィールドソサイエティーの活動は大変意義深いものではないだろうか。

フィールドソサイエティー



〒606-8421
京都市左京区鹿ヶ谷法然院町 72-2
法然院森のセンター
TEL 075-752-4582
FAX 075-752-4583
e-mail moricent@deluxe.ocn.ne.jp

賛助会員のご案内

活動に関心を持たれ、賛同いただけた方には「賛助会員」としてご協力をお願いしております。会誌「MURYOJU」(季刊)を郵送いたします。常時受け付けておりますので、どうぞご検討ください。

●賛助会員 (何口でも可)

個人	1口 年額 2,000 円
法人・団体	1口 年額 10,000 円
郵便振替	口座番号 01030-2-31955 口座名 フィールドソサイエティー

須藤流手打ちそば 京都・綾部の美しい水と空気の下で結実した「須藤流手打ちそば」。

そば匠 鼓
TUDUMI

〒623-0115 京都府綾部市湊垣町林ノ下 23-2 店舗営業時間 11:30~14:00
TEL: 0773-40-1168 HP: <http://www.sobasyou-tudumi.com/>

●アクセス
「湊垣」の交差点から舞鶴方面100メートルほど、山側(JR線と反対側)に立つ「湊垣丹和ゴルフ練習場」の看板が目印。鋭角に進入する山道(上り坂)を進んでいくと、ゴルフ練習場を過ぎたあたりにある数寄屋風店舗です。

もり 森林に関する人々

かつて、森林が元気だった頃、人々はさまざまなかたちで森林と関わっていました。食事の煮炊きに使う薪を集めたり山菜を採ったり、あるいは猟をしたりと、どの家庭も森林との関わりがなかで暮らしていました。

そして現在。「森林の大切さを見直そう」「美しく豊かな森林を取り戻そう」という気運が高まってきましたが、人々はどのように森林と関わっているのでしょうか。

当コーナーでは、森林に関わる人々について紹介します。

第1回 森林で働く人々①

森林との関わりで、まず思い浮かぶのが林業でしょう。

しかし、林業の漠然としたイメージはあっても、どんな人達が林業に携わっているかは、あまり知らない方が多いのではないのでしょうか。森林に関わる仕事は、主体となる団体によって次のように分けることができます。

まずは、各地の森林組合。森林組合とは、森林所有者が互いに協力して、林業の発展を目指す協同組合のこと。組合員の森林を中心に、地域の森林資源の管理・運営を図るため、間伐や下草刈り、伐採、植林など、さまざまな事業

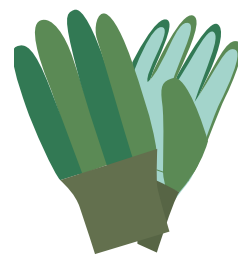
を行っています。身近なところでは、農業における農協に似ていますが、森林組合の場合、事業者ではなく、森林所有者や組合事業の利用者を組合員としている点が大きく違います。日本全体で見ても、森林組合が管理する森林の比率は高く、一般の「森林で働く人々」のイメージに一番近いのは森林組合かもしれません。

次に挙げられるのが、民間の林業会社。森林組合が組合員の出資で運営され、主に組合員の利益を目指すのに対し、林業会社は会社の営利を出すことを目的としています。山林の経営だけでなく、木材の販売、注文住宅なども行っているため、「森林で働く」だけでなくくりきれない部分もあります。

そして、国や都道府県、市町村などの行政機関。なかでも、林野庁には、地方ごとに7つの森林管理局を置いています。森林行政はもちろん、実際に国有林の管理も行っています。

もちろん、他にも、森林に関わる職業はあります。例えば、環境省所属の国家公務員である自然保護官(レンジャー)は、国立公園の環境を守り、動植物の調査をするのが仕事です。また、森林を利用する人に森林や林業の知識を広めるのが目的の森林インストラクターという仕事もあります。農林水産大臣が認定する資格制度で、応募資格は20歳以上。4科目の筆記試験と面接があります。

近年では、NPOや森林ボランティアなど、森林との非営利的な関わり方も増えてきているのは、皆さんもご存じの通りです。



京都府内森林組合マップ

●丹後地区森林組合

●宮津地方森林組合

●舞鶴市森林組合

●福知山地方森林組合

●綾部市森林組合

●京丹波森林組合

●園部町森林組合

●八木町森林組合

●亀岡市森林組合

●長岡京市森林組合

●山城町森林組合

●笠置町森林組合

●美山町森林組合

●日吉町森林組合

●京北森林組合

●京都市森林組合

●宇治市森林組合

●宇治田原町森林組合

●和束町森林組合

●南山城村森林組合



京都モデルフォレスト協会 平成22年度 定時総会

去る5月26日(水)、京都平安会館において京都モデルフォレスト協会平成22年度定時総会が開催され、174名の方が参加されました。

冒頭の柏原康夫理事長による挨拶では、創設から3年間の実績報告に加え、今後「精神的、実質的に生活の中に緑を根付かせる」とことと「産業としての林業の確立」を目指し、その基盤作りを推進していくことが大切だと述べられました。また、顧問挨拶として山田啓二京都府知事が、モデルフォレスト運動の意義と今後の活発な活動への期待を語られました。

続いて、今後10年間にわたって和東町湯船地域の森林整備に対する寄付行為を締結された三洋化成工業株式会社に、感謝状贈呈が行われました。

その後、議長古田裕三京都府立大学准教授のもと、平成21年度の決算と役員の改選が承認されました。併せて21年度事業と22年度事業計画、収支予算が報告されました。



京都モデルフォレスト協会理事長・
柏原康夫氏



京都府知事・山田啓二氏



和東町湯船地域の森林
整備寄付に対する感謝
状を受け取る三洋化成
工業株式会社副社長・
増田房義氏

記念講演報告

総会に続く記念講演では、今年5月、名古屋で開催された「都市における生物多様性とデザイン(URBIO2010)」の共同議長を務められた京都大学大学院地球環境学堂・農学研究科教授・森本幸裕氏に「生物多様性と経済」についてご講演いただきました。



(ご講演の要約)

日本では希少種保護の観点での“生物多様性”が注目されがちだが、国際的には多様な生物を生息環境とともに保全し、持続可能な形で利用し、利用から生ずる利益を公平に配分することが条約で求められる。利用や利益配分を踏まえて考えると生物多様性は農山村や自然地のみならず、都市にも大いに関わりのあるものと理解しなければならない。自然や里山・里海で生み出されるサービス(おいしい水や清浄な空気、樹木など自然の恵み)は都市に住む人間によって消費される。しかし、その対価を生産者である自然や里山・里海の管理に支払っている例は稀だ。このままでは、持続可能な生物資源の活用や保全を進めていくことは困難だ。

今後、生物多様性を無視して発生するリスクと、尊重して得られるチャンスを目に見えらるようにして、新たな持続可能な利用の開発に、インセンティブを与える枠組みを作っていくことが必要だ。



森と木の ナルホド講座

監修：京都モデルフォレスト協会

日本の陸地面積の約 67%を占める森林。

日本は世界で有数の森林国です。

世界の中では森林に恵まれている私たちですが、
実際、どれくらい森や木のコトを
知っているのでしょうか？

ここでは、知ってるつもりでもよく分かっていない
森や木に関するナルホドをご紹介します。

第7回：林業の衰退？！

外材による打撃

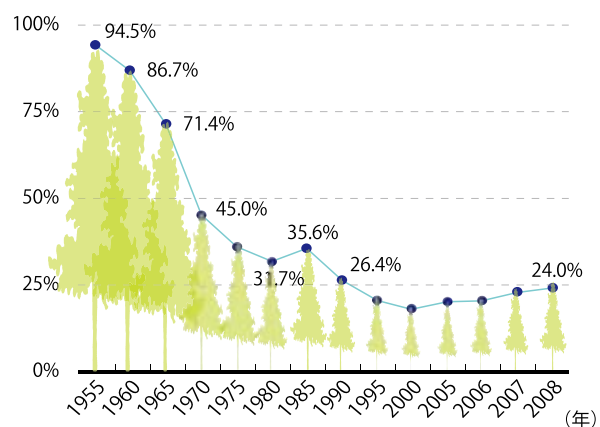
「林業の衰退」ということをよく耳にしますが、どうして林業は衰退してしまったのでしょうか。よく挙げられる理由は、外材、つまり外国産の木材の流入です。

戦後すぐの昭和 20 ～ 30 年代、荒廃した日本の復興のため、木材需要は急激に高まっていました。戦火で焼かれた建物の再建のために、木材は飛ぶように売れたのです。しかし、戦時中の乱伐や自然災害などの理由で木材は不足し、値段も高騰していきました。

そのため、昭和 30 年代に入って、木材の需要に応えるべく木材輸入の自由化が段階的にスタートし、昭和 39 年には全面自由化となりました。外材は国産材と比べて安く、かつ一度にまとまった量を安定的に供給できるというメリットがあるため、輸入量は年々増大していきました。

そのため、国産材のシェアは外材に奪われていき、日本の林業経営は苦しくなっていきます。昭和 30 年には木材の自給率は、9 割以上ありましたが、現在は 2 割強にまで落ち込んでいます。日本は陸地面積の 67%を森が占める森林大国であるにも関わらず、供給されている木材の約 8 割は輸入に頼っているというのが現状なのです。

日本の木材自給率の推移



林野庁「木材需要表」より
※用材の供給量を丸太換算したものの

荒廃する森林

こうして、需要を外材に奪われた林業は、採算が取れなくなってしまいました。十分に育った木を売っても、間伐をはじめとする森林の整備にかかる費用を回収できず、赤字になってしまうのです。林業の就業機会が減少し、若者は都市部へ雇用を求めるようになりました。山村地域では林業の衰退とともに地域の活力も低下し、林業就業者の高齢化、後継者不足に頭を悩ませているのが現状です。

また、かつては建築材以外にも、薪や炭、樽や桶の部材、建築現場の足場など、様々な用途で木材が使われており、それらの総額が林業の収入となっていました。しかし、時代とともに電気・ガス・石油、金属やプラスチック製品などの代替品にシェアを奪われ、多くの製品の需要がなくなりました。これらも林業の採算がとれなくなった大きな原因なのです。

林業の衰退が進んだ結果、森林は充分な手入れがなされず、荒廃が目立つようになりました。荒廃した森林は、公益的な機能が発揮できず、大雨等によって、土砂災害を起こしやすくなります。森林や私たちの安全な生活を守るためにも、林業についてもう一度考える必要があるのではないのでしょうか。



チーム以森伝心ニュース

第3期「チーム以森伝心」メンバー大募集!!



私たちと一緒に活動してみませんか？

「チーム以森伝心」では、新メンバーと一緒に、協会の活動を体験・取材して情報発信します。

文章表現が苦手でも、先輩メンバーのアドバイスがあるので大丈夫です。森林づくりに関心がある方、自然の中での活動に興味のある方、レポートを体験してみたい方、もちろん、京都モデルフォレスト協会に興味のある方、ぜひご応募ください。

「チーム以森伝心」とは？

「チーム以森伝心」は、本誌第5号（2008年8月）から登場し、協会の活動を体験・取材しレポートしてきました。

第1期・第2期の10人のメンバーの中から、府民みんなで京都の森を守り育てようとする京都モデルフォレスト協会を応援するために集まったのが、今年の「チーム以森伝心」です。

当ページの企画や編集をとおして、京都モデルフォレスト協会の応援団としていろいろな活動を展開します。

活動①

・モデルフォレスト協会をとりまく活動のレポート

モデルフォレスト協会の活動取材し、本誌に掲載。

活動②

・イベントの企画・運営

森林づくり活動を盛り上げていくために、2010年3月に「森林ボランティアのつどい」を実施。メンバーは企画から携わり、イベントの準備や運営を行いました。当日は、モデルフォレスト協会会員や団体、森林づくりに興味のある府民が集いました。野外料理や交流ワークショップを通して親睦を深め、森林ボランティアの現在とこれからについて話し合いました。

活動③

・「チーム以森伝心」メンバーミーティング

メンバーミーティングを開催し、取材の報告や個人で行っている活動の紹介を通し、メンバー同士の意見交換や今後の活動の方針について話し合いました。



本年度の活動内容

●「チーム以森伝心ニュース」コーナーの企画・編集

当ページを「チーム以森伝心」メンバーで担当し、企画・取材・執筆・編集を行います。また、誌面の企画内容に応じてイベントの企画・運営を担当することもあります。

●毎月第1金曜日に、編集会議のミーティングを開催

前項の企画・制作について、打合せやディスカッションを行います。また、より活発な活動や意見交換を行い、みんなで守る「森林づくり」の場の可能性を広げていきます。

●会報誌「以森伝心」のレポート

他コーナーの取材・執筆などを手伝うことがあります。

お申込・お問い合わせ先

お名前、ご住所、TEL（携帯電話でも可）、ご所属をお書き添えのうえ、TEL・FAXまたはE-mailにて下記（事務担当）までご連絡ください。

自然堂株式会社（担当：阿藤^{あとう}）

TEL: 075-321-1001

FAX: 075-321-1002

E-mail: ato@jinendo.co.jp

募集期間

平成22年9月24日までにご連絡ください。

活動報告

緑のカーテン講習会を開催しました

5月5日、府民の森ひよしで「緑のカーテン講習会」を開催しました。親子や少年団の団長さんなど17名が集い、緑のカーテンの役割や育て方について学びました。実習では先生のアドバイスを受けながら、家族や友達と一緒に苗を植えたり、肥料をまいたり、軽量土を使ってみたりといういろいろな試みにも取り組んでいました。各家庭に持ち帰った苗が緑のカーテンになる様子は、その成長記録をお送りいただいたみなさんからのレポートでお知らせしています。協会のホームページをご覧ください。



春の募金活動へのご協力ありがとうございました

3月1日～5月31日まで実施された春の募金キャンペーンでは多くの方々からご協力をいただきました。京都の森林・緑づくりや青少年の緑化活動に活用させていただきます。

平成22年度募金総額 **15,021,715円**



グンゼ株式会社と協定締結

7月22日、グンゼ株式会社の社会貢献活動の一環として、綾部市小畑町、鍛冶屋町で地域住民等と連携して広葉樹の整備等の森林の利用保全活動を円滑に推進するため、森林約7.2ヘクタールについて協定を締結しました。今後は、地元の方々やNPO等が協力して里山の整備にとりくみます。



春の芦生自然観察ツアーを開催しました



5月9日と6月12日に芦生自然観察ツアーを行いました。両日も天候に恵まれ、あわせて78人の方にご参加いただきました。

ガイドの伊藤五美さんから「芦生の天然林」の特徴は天然スギと落葉広葉樹が混じっていることなどを、演習林の歴史や地域の植生を交えて楽しく解説していただき、初夏の芦生を満喫しました。



発行：公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。

〒602-8054 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 府庁西別館内

TEL & FAX 075-414-1270 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <http://www.kyoto-modelforest.jp>

2010年8月発行

企画・編集：自然堂（じねんどう）株式会社



この印刷物は間伐材印刷用紙に大豆油インキで印刷しました。